

特別委員会活動報告

北上川治水対策特別委員会

北上川治水対策特別委員会は、今期定例会中の3月5日に担当職員の出席を求め、北上川治水対策団体の活動状況について調査しました。

市内には、北上川治水に関する次の団体があります。水沢区、黒石地区北上川築堤期成同盟会及び姉妹町振興会、前沢区、前沢地区治水対策協議会・赤生津地区期成同盟会、衣川区、地権者会がありますが、今特別委員会では、具体的な形で国に要望を行い、要望事項にそって回答された地域ということで、赤生津地区と衣川区を除いて協議しました。

はじめに、国土交通省との交渉内容について、総合支所の課長から説明を受け、その後これからの事業の見通しについて、質疑を中心に調査しました。

国土交通省の対応は、奥州市域の治水対策の重要性、緊急性を十分に認識していただいているとのことであり、一関遊水地事業の進捗状況や住家被害箇所の優先整備等の整備方針はあるものの、積極的に治水対策事業の具体化へ向け努めたいとの回答があり、長年に

かけて要望活動されてきた各団体の皆様の願いが、一歩一歩国に届いてきた感じがしました。

しかしながら、事業はこれからですので、北上川の治水対策については、引き続き治水対策事業等の現状調査のほか、関係団体の要望事項や治水対策への方針などの調査を行い、関係者間の共通認識を高めることが必要であることから、今後継続して調査することとしました。

競馬事業調査特別委員会

競馬事業調査特別委員会は、議定会閉会中の2月24日に委員会を開催し、市長、副市長及び担当職員のほか、県競馬組合から常勤副管理者等の出席を求め、20年度の競馬組合の運営状況、民間委託拡大に関する検討状況や来年度の運営見通しについて、質疑を中心に調査しました。

競馬組合は、20年度に民間委託を拡大する方向で検討してきましたが、構成団体への経営状況の情報公開などで合意に至らず、白紙になりました。また、これまで宮古や釜石などで場外発売所の運営を受託していた業者が、採算が合



沢山の人で賑わう岩手競馬の開幕（水沢競馬場）

わないということから、年度途中で契約を解除するという事態が発生しました。これは、今後の民間委託のあり方を検討する上で、大いに教訓としなければならぬ問題だと考えます。

なお、3月23日に開催した委員会で、今後の調査の進め方として、調教師、騎手及び厩務員など競馬に関係する方々との懇談会を開催することにしました。

岩手競馬は、関係者等の懸命な努力と収支計画の見直しにより、21年度も競馬開催の継続となりました。しかしながら、100年に1度とも言われる大不況による景気の大きな後退がみられ、競馬の

売上げ減少も懸念され、運営についてまだまだ予断を許さない状況にあることから、今後継続して調査することとしました。

地域医療調査特別委員会

地域医療調査特別委員会は、2月9日に岩手県保健福祉部公的医療改革担当技監はじめ3名の県担当者講師に招き、県が策定を進めている「岩手県公立病院改革推進指針（案）」についての勉強会を開催しました。

県は「いわて希望創造プラン」において「地域医療の確保」を重点目標の1つに掲げています。その実現のため、県立病院初め各公立病院は医療の質を確保しつつ、持続可能な経営のもとで、引き続き地域医療に大きな役割を果たせるよう、経営改革を推進する必要があるとしています。その実現のために本指針は県全体の医療を見据え、各圏域の公立病院改革の方向性を提示し、各市町村の「病院改革プラン」作りとその実施を支援することを目的として策定されるとしています。

この中で提示されている胆江地域の今後の方向性については、必要性に応じた質の高い医療を切れ目なく提供できるよう、医療者等による圏域連携会議を中心に、公立、民間全ての医療機関が、その